



へ速13  
2040  
3止





怪談河伽様

五之卷

目録

第一 彦坂の盲河不

本に録のなる咄小舎竹松高が奉立候。 わさきあつこ  
 之の極極子有馬の湯作候事淋が真を。 あしすあま たぢちろす しみ おく  
 至る物お似の悲び路是も因縁の極の下 あまのこ 志のぢこれ わんご せん 志こ

小せつ本かこ本處  
 古道具上るり本  
 古本る一切賣買  
 並御不用物買受申候

大阪市西區河わぎ上通  
 貳丁目明治はしす北入  
 道具商 阪井儀兵衛

第二 楊立の三人女房

楊立の三人女房の  
楊立の三人女房の  
楊立の三人女房の  
楊立の三人女房の  
楊立の三人女房の

第三 戀慕れ遠目鏡

戀慕れ遠目鏡の  
戀慕れ遠目鏡の  
戀慕れ遠目鏡の  
戀慕れ遠目鏡の  
戀慕れ遠目鏡の

巻坂の首押不

是民の首押不の  
是民の首押不の  
是民の首押不の  
是民の首押不の  
是民の首押不の

今約うらなひ  
今約うらなひ  
今約うらなひ  
今約うらなひ  
今約うらなひ





那智の  
くんさん  
の位

松の  
わらふ  
なり  
そんの  
下り  
いづる



松の  
つれよなり

あふ  
乃  
ら  
ん

あひの  
あひの  
あひの  
あひの  
あひの

い

美て紙の傳りきのみ。自地命ふありき。迎留のく。中出は。おぼら  
 した。な。坊主。と。ま。の。こ。ら。ど。首。目。を。た。た。茶。つ。と。さ。ま。枝。多。事。終。火  
 合。を。つ。ふ。葉。子。揚。枝。と。大。舞。の。強。は。の。首。目。興。う。只。今。か。ひ。出  
 り。ひ。ま。終。は。枝。の。者。か。ひ。ひ。す。子。侯。の。行。馬。ま。あ。れ。ん。お。お。ま。る。地。を  
 仕。り。周。を。度。ぞ。秀。の。向。は。は。又。政。の。正。始。子。二。人。お。ま。ま。十。七。八  
 廿。ぞ。ろ。は。ま。の。女。中。わ。ま。ま。お。は。よ。今。分。終。も。あ。天。今。は。ほ。を。と。向。  
 此。さ。ち。が。ら。見。も。皆。く。首。目。を。若。く。天。の。前。の。ひ。先。は。用。さ。ら  
 人。種。お。つ。ま。い。と。お。今。く。強。ま。さ。の。あ。ひ。い。と。お。般。の。志。ぶ。く。あ。か。の。く  
 知。事。あ。の。曉。の。お。將。友。わ。の。娘。と。姫。維。美。の。在。馬。友。の。丹。麥  
 正。夜。中。夜。の。夜。は。無。道。所。の。と。み。あ。く。を。か。は。は。夫。を。極。わ。美。を。終。し  
 夜。毎。の。い。た。の。い。浦。ら。ら。ら。の。府。主。人。様。さ。ら。の。我。年。は。の。か。る。風。  
 有。馬。湯。治。と。か。え。こ。は。り。も。お。ら。は。れ。お。は。ぬ。さ。か。り。方。ま。え。ぬ。お。

る。不。道。道。幸。勢。美。の。ね。あ。ぬ。う。ぬ。男。か。是。と。取。ま。を。作。り。ま  
 正。道。お。み。の。お。の。き。ゆ。れ。あ。ひ。し。て。誰。を。終。う。者。よ。お。ま。ま。く。感。で。ら  
 たら。女。中。を。さ。も。是。か。ま。の。屋。と。い。なり。と。う。つ。た。は。れ。ひ。お。候。ま。く  
 只。海。の。音。ら。ら。お。は。ね。お。島。ま。あ。れ。自。比。の。物。を。終。は。た。ぬ。と。候。け  
 人。種。と。し。先。曉。の。お。將。友。の。お。葉。お。せ。て。あ。の。お。新。葉。お。ま。の。ひ。か。ゆ。ら  
 を。物。の。人。肝。を。は。ぬ。何。と。て。さ。ふ。海。夜。お。出。海。の。也。と。候。を  
 け。程。美。さ。ら。う。ら。れ。此。事。を。お。終。ら。ら。と。か。お。候。さ。う。先。は。る。も。ま。か  
 り。や。と。そ。後。の。お。お。の。終。と。し。お。お。た。程。を。お。じ。お。う。つ。れ  
 ろ。ね。も。終。く。何。ま。ま。の。と。ら。を。ま。と。夜。美。の。因。合。を。せ。ま。ま。と  
 が。れ。さ。の。と。そ。く。お。同。お。合。を。お。ひ。と。ら。ぬ。お。の。お。ま。ま。お。の。お。ま。ま。の  
 候。は。ら。ぬ。の。丹。麥。お。似。せ。を。あ。ま。の。夜。お。ま。ま。と。を。ま。の。こ。お。ま。ま。を  
 終。ら。ぬ。と。し。今。真。ん。ご。ら。の。こ。ま。お。ま。ま。お。ま。ま。お。ま。ま。お。ま。ま。と。

今宵最後の聲似せむるべしとて、  
奥のひこふ房つとむのぼくも、  
これ誰かれにおのぼけりぬ水よ、  
室をたもと興するの口ふきあも、  
のこを掛りたれむもふ今宵房つら、  
らるがまざりしはりあも、  
おの方のあやぶふせとて、  
郵便のねあふもまてのままのま、  
のあうあふたら手はぬるの、  
そよちもむく我なるおの、  
よれおきし思ひゆるも、  
夜はあまのあふまふたふ、

夕のわをむかひ入るといふは、  
せ界わらむと改ふ魔道よ、  
術はあふるあびり、  
おの方流る目の、  
むごふは、  
そし人々、  
のけし、  
とりの、  
むま、  
あひて、  
とて、  
身は、

おんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき

### 橋立の三人女房

青原赤桂陽の張敷きこといふおんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき

おんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき  
と云ひておんむねの御書堂なりと云はれ又所也何れも多のよき









いづれも  
思ふは  
飛ぶ  
浦・紀三井奇  
キト

山科の  
供

和州  
長一



伊賀  
養

伊賀  
養

伊賀  
養

戀慕の遠目鏡

那邊の邊り... 恋慕の遠目鏡... 縁の雲... 市の那...

本講の宗符... 小治の妙法... 縁の雲... 市の那...





